

## 2023 年度事業報告

### 1. 会議、広報活動および会員数

#### (1) 会議の開催状況

##### (a) 評議員会

開催年月日	会議の内容
第一回 (定時) 6月25日	(1) 2022 年度事業報告について (2) 2022 年度計算書類（2022 年度計算書類、附属書類〔計算書類関係〕）について (3) 評議員候補者選挙管理委員の選任について
第二回 (臨時) 11月12日	(1) 評議員候補者選挙管理委員の交代について
第三回 (臨時) 3月24日	(1) 2024 年度事業計画について (2) 2024 年度収支予算書について

##### (b) 理事会

開催年月日	会議の内容
第一回 (通常) 6月11日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2022 年度事業報告について (3) 2022 年度計算書類報告について (4) 2020-2024 年期定時評議員会開催について (5) 新入会員の承認
第二回 (通常) 9月9日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2023 年度学会奨励賞受賞者の決定について (3) 会計部スタッフ採用について (4) 新入会員の承認 (5) 2023 年度研究大会業務委託について

第三回 (臨時) 10月29日	(1) 理事長、各委員会による活動報告 (2) 2020-2024 年期臨時評議員会開催について
第四回 (通常) 11月10日	(1) 理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 新入会員の承認
第五回 (通常) 12月23日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 新入会員の承認
第六回 (通常) 3月9日	(1) 理事長、副理事長による学会活動報告、および各委員会による活動報告 (2) 2024 年度事業計画書及び収支予算書について (3) 2023 年期臨時評議員会開催について (4) 新入会員の承認 (5) 会費滞納会員一覧

(c) 総会

11月11日、福岡国際会議場にて会員総会を開催した。

(2) 各種広報活動の状況

実施月	実施内容	対象者	発行形態
4月28日	Newsletter 175号刊行	会員	学会ウェブサイト公開
8月3日	Newsletter 176号刊行	会員	
10月31日	Newsletter 177号刊行	会員	
2月13日	Newsletter 178号刊行	会員	

①Newsletter は学会ウェブサイトで開催している。

(<https://jair.or.jp/publications/nl.html>)

②Newsletter の目的は、評議員会・理事会・各種委員会・分科会・事務局の活動の現況と今後の方針について情報を発信するとともに、会員からの声を反映し、会員相互の情報交換を促進することにある。

③学会ウェブサイトを通じた情報発信も継続・拡充し、今期は刊行物の案内 10 件、理事会・委員会からの連絡 20 件、研究大会の関連情報 24 件、シンポジウム等の案内や公募情報 98 件、合計 152 件の発信を行った。

④会員に対する情報提供のサービスとしてメーリングリストを活用した情報提供を実施し、Newsletter の刊行や研究大会の報告者募集および学会誌への投稿募集などについて連絡を行った。

### (3) 会員数の状況

2023 年度新入会員	72 名
2023 年度退会会員	65 名

種別	人数
維持会員	0 名
一般会員	1,647 名
学生会員	155 名
シニア A 会員	93 名
シニア B 会員	88 名
家族会員	38 名
計	2,021 名

2024 年 3 月 31 日現在

## 2. 事業の成果

### (1) 継 1. 機関誌・書籍発行业

1. 和文機関誌『国際政治』211 月号「ヘルスをめぐる国際政治」、212 号「二国間と多国間をめぐる日本外交」、213 号「アメリカ対外政策の変容と国際秩序」をそれぞれ刊行した。レフェリーによる厳正な審査を行うことによって、高い学術研究水準を確保しつつ、独立論文を各号に掲載した。
2. 研究成果の公開を一段と進めるため、独立行政法人科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルの無料公開システム (J-STAGE) を活用して、すでに 213 号まで掲載されている『国際政治』のバックナンバーを今期は 207 号まで無料公開した。
3. 英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific (IRAP)* については、Vol.23, No.2、同 No.3、Vol.24, No.1 の計 3 冊を電子ジャーナルにて発行した。投稿論文の掲載可否を判断するにあたっては、国際的なレフェリー陣による厳正な審査を行い、国際的学術交流の最前線として高い水準を維持した。
4. IRAP のインパクト・ファクターは 2016 年度には 0.676 であったが、2020 年度には 1.406 に上がり、最新版の 2023 年度は 1.4 であった。

### (2) 継 2. 研究会・講演会事業

1. 11 月 10 日～11 月 12 日に福岡国際会議場にて対面形式による研究大会を開催した。また、簡素化した形式ではあるが、4 年ぶりに懇親会も実施した。3 日間で参加者は 734 名を数えた。通常部会 13、市民公開講座を兼ねた部会 1、

日韓合同部会 1、分科会 37（アフリカ分科会は都合により中止）の企画を実施した。

2. 研究大会における部会、分科会プログラムは添付資料の通りである。

### (3) 継 3. 国際学術交流事業

1. KAIS（韓国国際政治学会）との交流を行なった。日本国際政治学会から 4 名を 12 月 8 日、9 日の KAIS 研究大会に派遣した。飯田敬輔理事長、林載桓・国際交流委員会副主任、佐橋亮会員、益尾知佐子会員が参加し、佐橋会員が報告者、益尾会員は討論者として登壇した。また、日本国際政治学会の研究大会（11 月 11 日）では、日韓合同部会“Nuclear Weapons and the Foreign and Security Policies of Japan and South Korea”を開催し、KAIS（韓国国際政治学会）から 3 名、日本国際政治学会から 3 名が報告者・討論者・司会者として参加した。

2. 研究大会では、日韓合同部会の開催について江草基金より国際研究集会開催助成を受けた。

3. International Studies Association、WISC（World International Studies Committee）など海外諸学会の動向や学術情報を会員に伝えて会員の国際学術会議への参加を促し、諸地域・諸外国との学術交流のネットワーク構築に取り組んだ。

### (4) 継 4. 院生・若手研究者助成事業

1. 院生・若手研究者の海外における研究成果発表や研究交流を促すため、国際会議に参加する会員に対してその渡航費などの支援を行う国際学術交流助成制度を今年度も継続し、International Summer School: Global History in the 2020s および European Congress on World and Global History との共催プログラムへの参加者 1 名、International Political Science Association (IPSA) 27<sup>th</sup> World Congress of Political Science への参加者 1 名、International Studies Association (ISA) 研究大会への参加者 1 名への助成を行った。

2. 2021 年度より開始された院生・若手研究者に対する国内旅費助成制度を今年度も継続した。本学会研究大会登壇者 13 名への助成を行った。

### 他 1. 研究活動奨励事業

2023 年度の第 16 回学会奨励賞を、崔智喜会員「中曽根政権期の対北朝鮮外交に関する研究—政治及び非政治レベルの 2 トラック外交に焦点を当てて」（『国際政治』第 210 号）に授与した。本賞は 2008 年度に創設されたものであり、前年度の和文機関誌『国際政治』および英文機関誌 *International Relations of the Asia-Pacific* の執筆者のうち、40 歳以下の若手会員を対象とした学会賞

で、学会奨励賞選考委員会が選考を行う。

また、崔会員による論文英訳に対して助成を行った。

### 3. その他の重要項目

2023年11月6日から12月5日にかけて、「評議員候補者選出規定」に基づき、2024年～2028年期の評議員候補者選挙を実施し、12月17日に開票を行った。

### 4. 庶務の概要

#### (1) 役員等に関する事項

##### 2023年度役員名簿（アイウエオ順）

理事長	飯田 敬輔	東京大学教授
副理事長	遠藤 貢	東京大学教授
理事	池内 恵	東京大学教授
	井上 正也	慶應義塾大学教授
	大島 美穂	津田塾大学教授
	楠 綾子	国際日本文化研究センター教授
	倉科 一希	同志社大学教授
	鈴木 基史	京都大学教授
	都留 康子	上智大学教授
	宮城 大蔵	中央大学教授
	和田 洋典	青山学院大学教授
監事	磯崎 典世	学習院大学教授
	山田 敦	一橋大学教授

評議員	赤木 完爾	慶應義塾大学名誉教授
	石田 淳	東京大学教授
	遠藤 誠治	成蹊大学教授
	大芝 亮	広島平和研究所所長
	太田 宏	早稲田大学教授
	吉川 元	広島市立大学教授
	國分 良成	慶應義塾大学名誉教授
	古城（久具）佳子	青山学院大学教授
	酒井 啓子	千葉大学教授
	佐々木 卓也	立教大学教授
	田所 昌幸	国際大学教授

	中西 寛	京都大学教授
--	------	--------

2023 年度事業報告・付属明細書

一般財団法人日本国際政治学会 2023 年度研究大会 部会・共通論題プログラム

---

第1日 11月10日(金) 13:00~15:30

---

午後の部会 (13:00~15:30)

部会1 「国際河川を巡る協調と対立」

司会 星野 昌裕 (南山大学)

報告 山田 哲也 (南山大学)

「国際河川の規範構造—航空利用と非航空利用」

地田 徹朗 (名古屋外国語大学)

「日本によるアラブ海救済支援とその教訓」

ダルウィッシュ・ホサム (アジア経済研究所)

「ナイル川の水資源をめぐる政治状況の再編における非流域国の役割」

討論 岩下 明裕 (北海道大学)

部会2 「決済制度の政治経済学—デジタル通貨の意義の現状と展望」

司会 田所 昌幸 (国際大学)

報告 長谷川 将規 (湘南工科大学)

「デジタル人民元の地政学—地政学的な含意」

江頭 進 (小樽商科大学)

「国際金融秩序における仮想通貨のインパクトのシミュレーションモデル」

川波 竜三 (大阪国際大学)

「暗号資産市場の動揺と主権国家」

討論 鈴木 一人 (東京大学)

相良 祥之 (アジア・パシフィック・イニシアティブ)

### 部会3 「COVID-19と国際労働移動」

司会 首藤 もと子 (筑波大学)

報告 岡部 みどり (上智大学)

「移民外交のパズル—国家、EU、グローバル政治空間における移民管理の相互連関：

COVID-19、ウクライナ危機の影響を中心に」

小川 玲子 (千葉大学)

「ケア労働者の国際移動と COVID-19」

手塚 沙織 (南山大学)

「パンデミックにおける国境管理をめぐるアメリカ政治」

討論 明石 純一 (筑波大学)

小松 志朗 (山梨大学)

### 部会4 「自由論題—国際秩序の形成、含意、変容—歴史と現在」

司会・討論 篠原 初枝 (早稲田大学)

報告 服部 聡 (大阪大学)

「国際連盟による経済秩序の形成」

舒 旻 (早稲田大学)

『自由で開かれた国際秩序』と東アジア—ボーダーランドの視点から」

高橋 知子 (京都大学)

「多数派から離れること—国連における中国とグローバル・サウスの事例から」

討論 大平 剛 (北九州市立大学)

分科会セッションA (15:45~17:45) 別掲

---

第2日 11月11日(土) 9:30~12:00 16:00~18:45 (共通論題)

---

午前の部会 (9:30~12:00)

### 部会5 「理論にとっての地域、地域にとっての理論」

司会 溝口 修平 (法政大学)

報告 玉置 敦彦 (中央大学)

「同盟論から見るウクライナ戦争」



政所 大輔（北九州市立大学）

“Justifying Intervention: Russian Invasion of Ukraine and Legitimacy Claims”

中村 長史（東京大学）

『正しい終戦』論の類型化—ロシア・ウクライナ戦争とユス・ポスト・ベルム」

討論 山添 博史（防衛研究所）

加藤 美保子（広島市立大学）

## 部会 6 「国際機構と国際政治」

司会 植木 安弘（上智大学）

報告 都築 正泰（上智大学）

「ウクライナ危機下の国連安保理改革—アメリカの『積極的』姿勢はどのような政治力学を生むのか」

和田 洋典（青山学院大学）

「競合レジームと主要国際経済機関のつながり—正統性源泉として」

真嶋 麻子（日本大学）

「開発支援のローカライゼーションからみる国際機構の役割」

討論 竹内 俊隆（京都外国語大学）

勝間 靖（早稲田大学）

## 部会 7 「キューバをめぐる国際政治」

司会 宮地 隆廣（東京大学）

報告 ロメロ・イサミ（帯広畜産大学）

「池田政権とキューバ革命—砂糖と米国の狭間で」

大澤 傑（愛知教育大学）

「キューバにおける基地政治の変容」

小池 康弘（愛知県立大学）（※欠席）

「ポスト・カストロ時代の『革命外交』をめぐる一考察」

討論 松本 八重子（亜細亜大学）

森口 舞（名城大学）

上村 直樹（南山大学）

## 部会 8 「『現実主義』の国際比較」

司会 中本 義彦（静岡大学）

報告 島村 直幸（杏林大学）

「アメリカのリアリズム—古典的リアリズムからネオクラシカル・リアリズムまで」

張 帆（財団法人勤務）

「改革開放以降の中国における『現実主義』の展開—日中比較の視点からの考察」

大山 貴稔（九州工業大学）

「醸成された『現実主義』—戦後日本における重層的人脈の生成と展開」  
討論 村田 晃嗣（同志社大学）  
岡垣 知子（獨協大学）

**部会 9 「ウクライナ戦争の多角的検討」**

司会 吉川 元（広島市立大学）

報告 兵頭 慎治（防衛研究所）

「ウクライナ戦争とロシアの将来」

田中 極子（東洋英和女学院大学）

「ロシアによるウクライナ侵攻から見る国連の機能」

益尾 知佐子（九州大学）

「中国の内政とロシア＝ウクライナ戦争」

討論 佐渡 紀子（広島修道大学）

小森 宏美（早稲田大学）

**部会 10 日韓合同部会 ”Nuclear Weapons and the Foreign and Security Policies of Japan and South Korea”（英語で実施）**

Chair: Keisuke Iida (JAIR President, University of Tokyo)

Speakers:

KURITA Masahiro (National Institute for Defense Studies)

” Revisiting the Evolution of Nuclear Strategies in South Asia and Its Theoretical Implications”

JEONG Hanbeom (Korea National Defense University)

“Korea-US Nuclear Consultative Group and NATO Nuclear Planning Group”

KIM Inwook (Sungkyunkwan University)

“Theorizing the Unthinkable: Nuclear Arms Control between the US and North Korea”

Discussants:

MICHISHITA Narushige (National Graduate Institute for Policy Studies)

SUK Juhee (Northeast Asia History Foundation)

分科会セッション B (12:15～13:45) 別掲

分科会セッション C (14:00～15:30) 別掲

総会 (15:30～16:00)

**【共通論題】「イラク戦争から 20 年—日本の国際政治学はどう変わったか」**

(ラウンドテーブル方式) (16:00~18:45)

司会 酒井 啓子 (千葉大学)

報告 三牧 聖子 (同志社大学)

『テロとの戦い』の帰結と向き合うアメリカ、向き合えないアメリカ

錦田 愛子 (慶應義塾大学)

「震源地としての中東—イスラム主義とテロとの闘い」

大矢根 聡 (同志社大学)

「アメリカ IR の認識論と日本の IR の現象論？」

梅本 哲也 (静岡県立大学)

「過渡期としてのイラク戦争—国際秩序の変動と日本の安全保障核兵器問題」

藤原 帰一 (東京大学)

「イラク戦争が国際政治に残したもの」

懇親会 (19:00~20:30)

---

第3日 11月12日(日) 14:00~16:30

---

分科会セッション D (09:30~11:00) 別掲

分科会セッション E (11:15~12:55) 別掲

部会 11 「『核のタブー』と国際関係」

\*非登壇共著

者

司会 山田 康博 (広島市立大学)

報告 松村 尚子 (神戸大学)、\*多湖淳 (早稲田大学)、\*Joseph M. Grieco (Duke University)

“Policy Cues and Public Support for Nuclear Sharing: Evidence from a Survey

Experiment in Japan”

石川 卓 (防衛大学)

「核のタブーか、アイロニーか?—揺さぶられる核秩序の中で」

梅原 季哉 (広島市立大学)

「非核三原則という歴史的逆説—規範論からのアプローチ」

討論 足立 研幾 (立命館大学)

遠藤 誠治 (成蹊大学)

部会 12 「国際関係史研究と『社会的なもの』」

司会・討論 大津留 (北川) 智恵子 (関西大学)

報告 溝口 聡 (関西外国語大学)

「ハワイの沖縄系コミュニティと沖縄帰属問題—移民史と外交史の関係性の観点から」

小野坂 元 (日本国際政治学会会員)

「疎遠な国際機関を協力関係に埋め込む国際 NGO—日中戦争期の ILO、中国 YWCA、国際労働組合連盟の事例から」

鶴見 太郎 (東京大学)

「あるロシア・ユダヤ人のなかの国際関係—D・S・パスマニク『クリミアにおける革命期』を読む」

討論 小林 知子 (福岡教育大学)

### 部会 13 “Enhancing Australia-Japan Cooperation: New Approaches to Minilateralism” (英語で実施)

司会・討論 畠山 京子 (新潟県立大学)

報告 David Envall (Australian National University)

“Australia, Japan and Minilateralism in the Economic-security Nexus”

Thomas Wilkins (The University of Sydney)

“Australia, Japan and the Revival of Indo-Pacific Minilateralism”

廣野美和 (立命館大学)

“China-Japan-South Korea Minilateralism”

討論 佐竹 知彦 (防衛研究所)

### 部会 14 「グローバル・サウス、その意味、共通点、多様性」

司会 小林 昭菜 (多摩大学)

報告 武内 進一 (東京外国語大学)

「アフリカが求める国際秩序」

浦部 浩之 (獨協大学)

「ラテンアメリカにおける国際秩序と覇権主義への対抗—地域間外交と社会運動」

宇山 智彦 (北海道大学)

「『ポストソヴィエト』と『グローバル・サウス』の狭間の中央アジア—地理的概念の政治的機能」

討論 竹中 千春 (立教大学)  
白戸 圭一 (立命館大学)

## 部会 15 「いま戦間期が問いかけるもの」(市民公開講座を兼ねる)

司会 北村 厚 (神戸学院大学)  
報告 細川 真由 (京都大学)  
「戦間期ヨーロッパ国際秩序の形成とフランス外交—国際連盟をめぐるフランス政府の認識に着目して」  
藤山 一樹 (大阪大学)  
「イギリスの対独宥和・再考—二人のチェンバレンと戦間期ヨーロッパ秩序」  
樋口 真魚 (成蹊大学)  
「日本外交におけるワシントン体制と国際連盟体制」  
討論 田嶋 信雄 (成城大学)  
林 忠行 (京都女子大学)

## 分科会プログラム

### ◆11月10日(金)

#### 分科会セッションA (15:45~17:45)

A-1 欧州国際政治史・欧州研究分科会 I 責任者 小川 浩之 (東京大学)  
テーマ 戦後欧州国際政治の思想的、イデオロギー的再検討  
司会 鳥潟 優子 (同志社女子大学)  
報告 窪内 尊之 (早稲田大学/ソルボンヌ・ヌーヴェル大学)  
「第二次世界大戦後のフランスと冷戦の起源を巡って——ブルム＝バーンズ協定の再検討  
1945-1946年」  
川嶋 周一 (明治大学)  
「帝国、ヨーロッパ、国家の終わり——アレクサンドル・コジェーブのヨーロッパ観と統合の歴史的位  
置」  
アントワン・ロート (東北大学)  
「西洋国際社会における政治的急進主義の台頭と文化的分裂」  
討論 工藤 芽衣 (帝京大学)  
小窪 千早 (静岡県立大学)

A-2 トランスナショナル分科会 I 責任者 細田 晴子 (日本大学)  
テーマ 国際難民保護レジームの課題と挑戦  
司会 小川 裕子 (東海大学)

- 報告 柄谷 利恵子 (関西大学)  
「第3国定住受入と UNHCR——難民レジームにおける負担と責任の再検討」  
上野 友也 (岐阜大学)  
「集団安全保障レジームと難民保護レジームの補完と相克」  
大道寺 隆也 (青山学院大学)  
「難民保護レジームにおける人道主義——移動者の『当事者性』回復に向けた理論と実践」
- 討論 小林 綾子 (上智大学)  
赤星 聖 (神戸大学)

### A-3 東南アジア／日本外交史合同分科会

責任者 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)  
中島 琢磨 (九州大学)

- テーマ 東南アジアの現在と日本
- 司会 青木 (岡部) まき (アジア経済研究所)
- 報告 早川 修 (立命館アジア太平洋大学)  
「2023年タイ総選挙の意義」  
井原 伸浩 (名古屋大学)  
「シンガポールの外国干渉対策法 (FICA) における『干渉』行為の定義」  
服部 龍二 (中央大学)  
「ミャンマー・クーデターと日本外交——2021-2023」
- 討論 永井 史男 (大阪公立大学)  
板谷 大世 (広島市立大学)  
中西 嘉宏 (京都大学)

### A-4 環境分科会 I

責任者 高橋 若菜 (宇都宮大学)

- テーマ 気候危機に立ち向かうグローバルガバナンス
- 司会 高橋 若菜 (宇都宮大学)
- 報告 河越 真帆 (神田外語大学)  
「EU が先導する気候変動対策——国際航空と国際海運の事例」  
沖村 理史 (広島市立大学)  
「気候変動問題における多様化した目標のガバナンス」  
尾身 悠一郎 (一橋大学)  
「『1・5℃』下における国際政治学と日本国際政治学会の在り方」
- 討論 市川 顕 (東洋大学)  
太田 宏 (早稲田大学)

### A-5 政策決定分科会 I

責任者 齊藤 孝祐 (上智大学)

- テーマ 再考：戦後米華関係——米軍の台湾駐留と“チャイナ部隊”の沖縄駐留をめぐる交渉の再検

討

司会 川名 晋史 (東京工業大学)

報告 五十嵐 隆幸 (防衛研究所)

「台湾と米軍基地——台湾駐留米軍をめぐる中華民国政府内の政策決定過程」

波照間 陽 (成蹊大学)

「米華余剰物資売却協定と沖縄における『チャイナ部隊』の駐留」

討論 野添 文彬 (沖縄国際大学)

川名 晋史 (東京工業大学)

◆11月11日(土)

分科会セッションB(12:15~13:45)

**B-1 トランスナショナル分科会 II** 責任者 細田 晴子 (日本大学)

テーマ グローバルメディアの進化——民主主義における課題と展望

司会 市原 麻衣子 (一橋大学)

報告 RASIT Huseyin (立命館大学)

“Journalists of the Empire: Capitalism, Imperialism, and Misinformation”

大河原 健太郎 (株式会社原田武夫国際戦略情報研究所)

「AI論と『ポスト真実の政治』——ワシントン襲撃の自己正当化を事例に」

討論 市原 麻衣子 (一橋大学)

森口 (土屋) 由香 (京都大学)

**B-2 ジェンダー分科会** 責任者 古沢 希代子 (東京女子大学)

テーマ 性と身体をめぐる政治学

司会 古沢 希代子 (東京女子大学)

報告 中川 香須美 (パンニャサストラ大学)

「代理出産ツーリズムと生殖技術——カンボジアを事例に」

中村 文子 (山形大学)

「武力紛争下の人身売買——ウクライナ侵攻から逃れる女性を中心に」

ゴンザレス・プジョル、イバン (Iván González Pujol) (カタルーニャオープン大学)

“Analyzing the Intersection between Japan’s Domestic Politics, National Interests and the International Protection of Sexual Minorities’ Rights”

討論 大野 聖良 (お茶の水女子大学)

片柳 真理 (広島大学)

本山 央子 (お茶の水女子大学)

**B-3 ロシア・東欧分科会 I** 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)

テーマ 自由論題

司会 湯浅 剛 (上智大学)  
報告 堀田 主 (慶應義塾大学)  
「ソ連外交と人権——CSCE ウィーン再検討会議における東西交渉、1986-1989年」  
齋藤 竜太 (ロシアNIS貿易会)  
「現代中央アジアとアフガニスタン——国境を接する3か国を中心に」  
Nurgaliyeva Lyailya (高崎経済大学)  
“The China factor in Central Asia through its Belt and Road Initiative”  
討論 湯浅 剛 (上智大学)  
玉井 雅隆 (東北公益文科大学)

**B-4 国際交流分科会 I** 責任者 加藤 恵美 (帝京大学)  
テーマ 自由論題  
司会 斎川 貴嗣 (高崎経済大学)  
報告 鈴木 勉 (青山学院大学)  
「文化外交における『価値観』をめぐる一考察——戦後日本の国益概念の揺らぎを通して」  
矢野 真太郎 (早稲田大学)  
「1930年代の日中関係における経済交流——上海の銀行家の役割を中心に」  
討論 芝崎 厚士 (駒澤大学)  
段 瑞聡 (慶應義塾大学)

**B-5 国際政治経済分科会 I** 責任者 三浦 聡 (名古屋大学)  
テーマ 「危機」における協力と対立の国際政治経済 \*非登壇共著者  
司会 西谷 真規子 (神戸大学)  
報告 舛方 周一郎 (東京外国語大学)  
「ブラジルをめぐる域外大国のワクチン外交と国内の反応」  
藤田 将史 (関西学院大学) / 韓 アラン\* (東京大学) / 安田 知夏\* (東京大学)  
「Vienna Initiative における民間金融機関-IMF 間協力——民間主体と国際組織の協力  
による国家のガバナンス」  
\*登壇者は藤田会員のみ。  
討論 古城 佳子 (青山学院大学)  
大森 佐和 (国際基督教大学)

**B-6 国連研究分科会 I** 責任者 藤重 博美 (青山学院大学)  
テーマ 平和に向けた国連による努力の諸様相  
司会 上杉 勇司 (早稲田大学)  
報告 石塚 勝美 (共栄学園大学)  
「ミドルパワーの国連平和維持活動への参加に関する考察」  
田辺 圭一 (東海大学)



「国連平和活動における中国の実利主義と『中国流平和』規範浸透の試み」  
川口 智恵（東洋学園大学）  
「国連の『持続的な平和』における『ビジネスと平和』の統合——BHR と B4P をめぐって」  
討論 上杉 勇司（早稲田大学）  
武藤 亜子（JICA 緒方研究所）

**B-7 理論と方法 I** 責任者 松村 尚子（神戸大学）

テーマ 戦争を研究する新たな視点

司会 伊藤 岳（大阪公立大学）

報告 石黒 馨（神戸大学）

「限定戦争とエスカレーション——ロシア・ウクライナ戦争の分析」

今田 将吾（防衛研究所）

「戦争の抑止に関する新たな方法論の一考察」

討論 石田 淳（東京大学）

広瀬 健太郎（新潟県立大学）

**B-8 アメリカ政治外交／東アジア国際政治史合同分科会**

責任者 水本 義彦（獨協大学）

福田 円（法政大学）

テーマ 冷戦期国際政治と規範

司会 水本 義彦（獨協大学）

報告 八丁 由比（九州工業大学）

「国際連合憲章における人種平等原則とアメリカ」

澤井 勇海（成蹊大学）

「判事のための国際政治——戦後日本・中華民国と国際司法裁判所選挙、1954-1966」

KIM MINJUN（京都大学）

「1967年のモラルジー・デーサーイーの訪日と日印関係」

討論 小阪 裕城（釧路公立大学）

潘 亮（筑波大学）

溜 和敏（中京大学）

**B-9 国際統合分科会 I** 責任者 東野 篤子（筑波大学）

テーマ 欧州主要国と「リベラル国際秩序」——ブレグジット、ウクライナ戦争の衝撃（1）

司会 中村 英俊（早稲田大学）

報告 池本 大輔（明治学院大学）

「リベラル国際秩序の危機とブレグジット——再考」

吉田 徹（同志社大学）

「マクロンのフランスにおける『ヨーロッパ・パワー』の限界」

討論 東野 篤子 (筑波大学)  
森井 裕一 (東京大学)

### 分科会セッションC (14:00~15:30)

- C-1 日本外交史分科会 I** 責任者 中島 琢磨 (九州大学)
- テーマ 日本・沖縄・韓国の米軍基地の連関性
- 司会 太田 昌克 (共同通信)
- 報告 成田 千尋 (立命館大学)
- 「朝鮮国連軍に対する日本の役割の変化——1950-1972」
- 井上 史 (早稲田大学)
- 「1950年代初期における米軍の対日刑事裁判権政策——日米行政協定第17条改定と国連軍地位協定交渉」
- 元山 仁士郎 (一橋大学)
- 「『韓国条項』と沖縄秘密合意議事録——米作戦計画の分析を中心に」
- 討論 信夫 隆司 (日本大学)
- 太田 昌克 (共同通信)
- 
- C-2 ラテンアメリカ分科会** 責任者 浦部 浩之 (獨協大学)
- テーマ ラテンアメリカ外交とアジア太平洋地域
- 司会 子安 昭子 (上智大学)
- 報告 田中 秀一 (一橋大学)
- 「メルコスール地域主義の新局面——ウルグアイの一方的行為と『柔軟性ジレンマ』」
- 山岡 加奈子 (アジア経済研究所)
- 「2000年代以降の日本とラテンアメリカ・カリブ関係——日本のソフト・バランスィング戦略とラテンアメリカ・カリブ諸国の戦略的ヘッジングの交差」
- 討論 勝間田 弘 (東北大学)
- 岸川 毅 (上智大学)
- 
- C-3 ロシア・東欧分科会 II** 責任者 長谷川 雄之 (防衛研究所)
- テーマ 権威主義体制間の協力とネットワーク化—ロシア・ウクライナ戦争と「グローバルサウス」
- 司会 廣瀬 陽子 (慶應義塾大学)
- 報告 庄司 智孝 (防衛省防衛研究所)
- 「グローバルサウスとしてのASEAN——ウクライナ戦争への対応を中心に」
- 工藤 年博 (政策研究大学院大学)
- 「ミャンマー軍政と権威主義ネットワーク」
- 長谷川 雄之 (防衛省防衛研究所)
- 「プーチン体制と『グローバルサウス』——権威主義体制の変容と新興国・途上国への関

与」

討論 廣瀬 陽子（慶應義塾大学）  
井手 康仁（日本大学）

**C-4 環境分科会 II** 責任者 高橋 若菜（宇都宮大学）

テーマ 変わりゆく東アジアの環境協力

司会 真田 康弘（早稲田大学）

報告 飯嶋 佑美（日本国際問題研究所）

「中国の環境外交と環境協力戦略」

中山 賢司（創価大学）

「東アジア海域環境協力にみる沿岸域総合管理ネットワークとサブリージョナル・ガバナンス」

討論 毛利 勝彦（国際基督教大学）

宮崎 麻美（熊本学園大学）

**C-5 中東分科会** 責任者 千葉 悠志（公立小松大学）

テーマ 政治的暴力と安全保障

司会 千葉 悠志（公立小松大学）

報告 岡部 友樹（大阪経済法科大学）

「レバノンにおける政治的暗殺と権力分有体制」

望月 葵（日本学術振興会）

「難民のセキュリタイゼーション——地中海域・中東をめぐる国境管理と『域外地域』構築の動向」

討論 溝渕 正季（広島大学）

小林 周（日本エネルギー経済研究所）

**C-6 院生・若手研究分科会 I** 責任者 細川 真由（京都大学）

テーマ 東アジア国際関係の動態——緊張と協調の50年

司会 長 史隆（広島市立大学）

報告 王 同塵（名古屋大学）

「『民国』への眼差し——日中戦争期における日本の三民主義をめぐる言説の系譜」

LEE SEOKMIN（イソクミン）（早稲田大学）

「在日民団育成をめぐる日韓協力、1966-1971——協定永住権促進をめぐる日韓政府協力」

龔 氷怡（大阪大学）

「中国市場をめぐる日米競争——コンピューター輸出問題を中心に（1977-1982年）」

討論 森 靖夫（同志社大学）

木宮 正史（東京大学）

和田 龍太（東海大学）

**C-7 国際交流分科会 II**

責任者 加藤 恵美 (帝京大学)

テーマ 自由論題

司会 加藤 恵美 (帝京大学)

報告 大嶋 えり子 (慶應義塾大学)

「ユダヤ人コミュニティをめぐる言説——フランスにおける『共同体主義』概念の使用に関するムスリムとの比較検討」

南波 慧 (高崎経済大学)

「英仏海峡における『密航』と人道主義」

討論 植村 充 (東京大学)

堀井 里子 (国際教養大学)

**C-8 アフリカ分科会 (※開催中止)**

責任者 矢澤 達宏 (上智大学)

テーマ 自由論題

司会 矢澤 達宏 (上智大学)

報告 大門 (佐藤) 毅 (早稲田大学)

「遅れてきたアラブの春——スーダン紛争をめぐる米ロ中関係と空間的相関の検証」

佐藤 章 (アジア経済研究所)

「サハラ以南アフリカにおける憲法、権威主義、権力闘争——コートジボワールの事例から」

討論 福富 満久 (一橋大学)

藤井 広重 (宇都宮大学)

**C-9 東アジア／安全保障合同分科会**

責任者 土屋 貴裕 (京都先端科学大学)

栗田 真広 (防衛研究所)

テーマ 北東アジアの対外政策

司会 宮本 悟 (聖学院大学)

報告 浅見 明咲 (防衛研究所)

「金正恩政権における対外政策——『自主、平和、親善』と米韓への含意」

楊 向峰 (嶺南大学)

“Ugly Entanglements, Systemic Pressure, and the Fear of an Uncertain Future: Explaining China’s Muddled Response to the Ukraine War”

石原 雄介 (防衛研究所)

「日本の『戦後バーゲン』の再交渉——2つのニクソン・ショックと覇権秩序の多元化」

討論 増田 雅之 (防衛研究所)

井上 正也 (慶應義塾大学)

宮本 悟 (聖学院大学)

◆11月12日(日)

分科会セッションD(9:30~11:00)

D-1 国連研究分科会 II 責任者 藤重 博美(青山学院大学)

テーマ 国連における規範の発展と限界

司会 滝澤 美佐子(桜美林大学)

報告 大内 勇也(日本学術振興会特別研究員)

「国連における人権規範の変容——ピノチェト体制下のチリを事例に」

山田 真弓(立命館大学)

「問われる国連規範の有効性——グローバルガバナンスの追求」

討論 滝澤 美佐子(桜美林大学)

宮下 大夢(名城大学)

D-2 安全保障分科会 I 責任者 栗田 真広(防衛研究所)

テーマ 自由論題

司会 栗田 真広(防衛研究所)

報告 李 乘漢(神戸大学)

「イスラエルの安全保障における全方位均衡論の適用——核兵器政策の不透明性と脅威認識を中心に」

坂口 滉季(中央大学)

「スペース・パワー論の展開と限界についての考察：理論的枠組みの検討」

討論 江崎 智絵(防衛大学校)

志田 淳二郎(名桜大学)

D-3 欧州国際政治史・欧州研究分科会 II 責任者 小川 浩之(東京大学)

テーマ 現代欧州国際秩序・制度の新たな展開

司会 山本 直(日本大学)

報告 斎藤 至(国立研究開発法人 科学技術振興機構)

「EU 研究イノベーション政策の制度転換——Horizon Europe を中心に」

安田 知夏(東京大学)

「現代 EU の文化政策——欧州委員会と欧州議会の機関間関係に着目して」

吉崎 知典(東京外国語大学)

「同盟と欧州国際秩序——NATO 拡大とロシアのウクライナ侵攻をめぐって」

討論 遠藤 乾(東京大学)

川村 陶子(成蹊大学)

D-4 国際政治経済分科会 II 責任者 三浦 聡(名古屋大学)

テーマ 国際秩序変動期の国際政治経済

司会 三浦 聡 (名古屋大学)

報告 韓 アラン (東京大学) / 川瀬 朗 (京都大学)

「自由貿易レジームの衰退期における国家間協力の形成過程——半導体輸出規制同盟を事例に」

大谷 壮生 (一橋大学)

「アクターの地位認識形成における『多国間』から『二国間』への視点移行とその含意」

討論 吉松 秀孝 (立命館アジア太平洋大学)

阿部 悠貴 (熊本大学)

#### D-5 理論と方法 II

責任者 松村 尚子 (神戸大学)

テーマ 武力紛争・危機の理論と方法

司会 久保田 徳仁 (防衛大学校)

報告 片桐 梓 (大阪大学)

“Escalatory Behaviors and Credibility Concerns”

窪田 悠一 (日本大学)

“Internal Displacement and Post-conflict Gender Attitudes: Evidence from Northwestern Pakistan”

大村 啓喬 (滋賀大学)

「内戦の再燃とジェンダー平等」

討論 稲田 奏 (東京都立大学、非会員登壇)

土井 翔平 (北海道大学)

#### D-6 国際統合分科会 II

責任者 東野 篤子 (筑波大学)

テーマ EU の「リベラル国際秩序」——ブレグジット、ウクライナ戦争の衝撃 (2)

司会 臼井 陽一郎 (新潟国際情報大学)

報告 小林 正英 (尚美学園大学)

「大国競争のなかの EU 安全保障政策——米英露中の挑戦」

神江 沙蘭 (関西大学)

「EU 複合危機とリスクシェアリング——資本市場と財政支援」

討論 武田 健 (青山学院大学)

臼井 陽一郎 (新潟国際情報大学)

#### D-7 東アジア国際政治史分科会 I

責任者 福田 円 (法政大学)

テーマ 日中戦争期中国における日本情報・日本観

司会 川島 真 (東京大学)

報告 高柳 峻秀 (東京大学)

「重慶国民政府外交部の対日情報収集と日本論 (1938-1945)」

関 智英 (津田塾大学)  
「中国占領地における日本認識——『華文大阪毎日』を手掛かりに」  
討論 劉 傑 (早稲田大学)  
団 陽子 (日本学術振興会)

#### 分科会セッションE (11:15~12:55)

**E-1 アメリカ政治外交分科会** 責任者 水本 義彦 (獨協大学)

テーマ 自由論題

司会 吉留 公太 (神奈川大学)

報告 草野 大希 (埼玉大学)

「介入主義の果てに——アメリカ対外政策における不介入主義の台頭」

泉 淳 (東京国際大学)

「米国ムスリム——『9.11 テロ事件』以降の政治参加と政治志向の変容」

討論 森 聡 (慶應義塾大学)

前嶋 和弘 (上智大学)

**E-2 日本外交史分科会 II** 責任者 中島 琢磨 (九州大学)

テーマ 日本外交史の諸相

司会 高橋 和宏 (法政大学)

報告 李 睿哲 (京都大学)

「国民革命軍の北伐後の日中交渉と『後期田中外交』」

野間 俊希 (大阪大学)

「日韓国交正常化交渉における管轄権問題——日本政府の対応と『相互黙認』案の成立」

肖 陽 (東北大学)

「中越戦争における日本の対ソ政策と日台チャンネル——大平正芳内閣の外交の再検討」

三代川 夏子 (東京大学)

「中曽根政権期の対外政策決定過程と日台チャンネル——外務省と他アクター間の競合」

討論 井上 寿一 (学習院大学)

若月 秀和 (北海学園大学)

**E-3 欧州国際政治史・欧州研究分科会 III** 責任者 小川 浩之 (東京大学)

テーマ スプートニク事件の多角的・多面的分析

司会 友次 晋介 (広島大学)

報告 河本 和子 (一橋大学)

「普遍の科学技術が示した未来としての社会主義」

板橋 拓己 (東京大学)

「西ドイツにおける戦略的思考の誕生」

小川 浩之 (東京大学)  
「イギリスにおけるスプートニク事件の影響—対外政策・科学技術・市民社会」  
討論 松村 史紀 (宇都宮大学)  
倉科 一希 (同志社大学)

**E-4 政策決定分科会 II**

責任者 齊藤 孝祐 (上智大学)

テーマ 国際秩序形成をめぐる政策決定——短期、中期、長期的分析

司会 齊藤 孝祐 (上智大学)

報告 松本 明日香 (東北大学)

「アメリカにおける情報産業をめぐる決定過程——トランプ政権からバイデン政権における対中摩擦とその変遷」

山口 航 (帝京大学)

「価値外交の系譜における『自由で開かれたインド太平洋』

中谷 直司 (帝京大学)

「『平和的な秩序変更』の理論は政策決定の規範的な枠組となり得るか」

討論 佐橋 亮 (東京大学)

齊藤 孝祐 (上智大学)

**E-5 院生・若手研究分科会 II**

責任者 細川 真由 (京都大学)

テーマ 「分断」を超えて——冷戦終結後の世界へのまなざし

司会 富田 健司 (九州大学)

報告 李 強 (島根県立大学)

「南北朝鮮国連同時加盟の政治過程をめぐる『中国決定論』の検証」

中條 紘大 (広島市立大学)

「民主主義規範の受容と拒絶——1990年代のCSCE/OSCEの事例分析」

永田 理乃 (九州大学)

「関係性に根ざした平和構築の実践——ボスニア・ヘルツェゴビナの事例から」

討論 平岩 俊司 (南山大学)

宮脇 昇 (立命館大学)

中内 政貴 (上智大学)

**E-6 安全保障分科会 II**

責任者 栗田 真広 (防衛研究所)

テーマ 経済安全保障の諸相

司会 三浦 秀之 (杏林大学)

報告 松本 栄子 (拓殖大学)

「米国のロシアに対する経済制裁——経済相互依存の視点」

平木 綾香 (慶應義塾大学)

「米国の安全保障の変遷——CFIUS改革から考察する」



討論 三浦 秀之 (杏林大学)  
松村 博行 (岡山理科大学)

**E-7 東アジア国際政治史分科会 II** 責任者 福田 円 (法政大学)

テーマ 中国・香港をめぐる人の移動と国際政治史

司会 福田 円 (法政大学)

報告 古泉 達矢 (金沢大学)

「第一次世界大戦期における華工の徴募・支援事業への在華宣教師の関与」  
黄 偉軒 (京都大学)

「『香港ネットワーク』の冷戦期日本外交における役割」

長谷川 奈々 (早稲田大学)

「香港政庁の対中国『不法移民』政策を規定した要因、1971-1984年」

討論 倉田 徹 (立教大学)

塩出 浩和 (城西国際大学)

**E-8 平和研究分科会** 責任者 二村 まどか (法政大学)

テーマ 平和と武力行使をめぐる政治と法

司会 二村 まどか (法政大学)

報告 井上 実佳 (東洋学園大学)

「国際平和活動の変容とソマリア——国連とAUの『パートナーシップ』はなぜ生まれたか」

志村 真弓 (立命館大学)

「強制外交における大国の行動の自由と国際法的制約——『意思または能力を欠く国家』基準論の国際政治学的分析」

討論 大西 健 (防衛研究所)

山本 慎一 (香川大学)

## 2. 和文学機関誌『国際政治』211号～213号掲載論文

『国際政治』211号

栗栖薫子「序論 ヘルスをめぐる国際関係論」

赤星聖「グローバル・ヘルス・ガバナンスにおける『二重の断片化』」

小松 志朗「往来制限をめぐる科学的な国際協調」

勝間靖「国際関係における『健康』の規範と目標をめぐるグローバルヘルス外交」

秋山信将「グローバル・ヘルスレジームにおける調査・検証権限の制度的考察」

玉井隆「ワクチン接種の政治力学」

西村めぐみ「人間の安全保障と感染症パンデミックの政治過程」

土佐弘之「プラネタリー・ヘルスの危機と新たな開発原病」

<独立論文>

麻田雅文「ソ連による日本の分割占領と海峡管理計画」

<書評論文>

小林綾子「文民保護と保護する責任の二十年」

谷口美代子「東南アジア大陸部における人びとの戦争史」

<書評>

遠藤乾、坪郷實、堀井里子

『国際政治』212号

高橋和宏「序論 二国間と多国間をめぐる日本外交」

鈴木宏尚「GATT 三五条対日援用問題」

山口真人「GATT 三五条援用撤回問題と日英通商航海条約」

中西友汰「官邸における東南アジア外交の模索」

武田悠「核物質をめぐる国際協議と日本外交」

白鳥潤一郎「苦悩する『経済大国』」

長史隆「商業捕鯨モラトリアム（一九八二年）をめぐる日本外交」

若月秀和「冷戦終結過程での日本の対中外交」

村上友章「国連安保理非常任理事国としての日本のカンボジア外交」

畠山京子「インド太平洋地域秩序をめぐる日豪の多国間と二国間外交の比較」

<独立論文>

平井雄大「責任のリアリズム」

<書評論文>

倉科一希「複数の分岐点としてのドイツ統一」

岡部みどり「リベラル民主主義国の限界と出入国管理」

金ゼンマ「ルールセッターは誰か？」

<書評>

志田淳二郎、高岡豊

『国際政治』213号

西山隆行「序章 アメリカの対外政策の変容と国際秩序」

佐々木卓也「アメリカ外交の長期的展開・変容と国際秩序」

西田竜也「『リベラルな国際主義』の変容と新冷戦 2.0」

三牧聖子「内側から侵食される『リベラルな国際秩序』」

大津留（北川）智恵子「境界線に投影される国際秩序の二面性」

大矢根聡「トランプ・バイデン政権の対中半導体紛争」

三島武之介「二つの『一つの世界』」

溝渕正季「なぜ米国はイラクに侵攻したのか？」

<独立論文>

渡辺理子「ASEANのミャンマー問題への対応」

<書評論文>

山田哲也「植民地独立と国連平和維持活動の起源から見えるもの」

伊藤和歌子「デジタルシルクロードは中国的価値観の」

松尾昌樹「普及・拡大ツールとして機能しているか」

「湾岸アラブ諸国研究の新潮流は生まれるか」

<書評>

武田悠、後藤春美、若月秀和

3. 英文機関紙 *International Relations of Asia-Pacific* Vol.23, No.2, No.3, Vol.24, No.1 掲載論文

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.23, No.2

Dalei Jie “From ‘shelving sovereignty’ to ‘regularized patrol’?: prospect theory and Sino-Japanese islands dispute (2012–14)”

Youngjune Chung “Strategic psychology and the study of China’s whole-of-nation strategy”

Joanne Wallis and others “Security cooperation in the Pacific Islands: architecture, complex, community, or something else?”

Nori Katagiri “The promise and challenges of launching cyber-military strikes: Japan’s ‘cross-domain’ operational concepts”

Takako Hikotani and others “Revisiting negative externalities of US military bases: the case of Okinawa”

BOOK REVIEWS

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.23, No.3

Thao-Nguyen Ha and Linus Hagström “Resentment, status dissatisfaction, and the emotional underpinnings of Japanese security policy”

Jiyoung Ko and Sung Mi Kim “No Japan’: explaining motivations behind nationalist boycotts in South Korea”

In Young Min “Seeking status and ontological security in hierarchy: Korea in the historical East Asian order”

Masafumi Fujita “Why delegate to the IMF? Congressional preference and blame avoidance”

Brian C Chao and Hyun-Binn Cho “Security in the Asia-Pacific and signaling at sea”

#### BOOK REVIEWS

*International Relations of the Asia-Pacific*, Vol.24, No.1

Devin Joshi “From guo to tianxia: linking two Daoist theories of International Relations”

Hunter S Marston “Navigating great power competition: a neoclassical realist view of hedging”

Mohamad Rosyidin and Indra Kusumawardhana “Neither promoting nor projecting democracy: Indonesia’s middlepowermanship in the Bali democracy forum under Joko Widodo”

Chien-Huei Wu and others “Long arm of the regime: who signs extradition agreements with China?”

Chung-li Wu and Alex Min-Wei Lin “Will the United States come to Taiwan’s defense? Analysis of public opinion in Taiwan and the United States”

#### BOOK REVIEWS